

グループホーム ちくし永岡の里

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「福祉・人権・環境・教育・平和は皆平等の精神で地域社会に貢献できる介護施設を目指す」ことを基本理念にどのような境遇の方でも受け入れることを社是としている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念は日々の申し送りの際に唱和し、定例の会議の場でも具体的な提起を行い実践を促している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		ご家族にはご利用開始時はもちろん折に触れ、お話している。また、運営推進会議で地域の見なさんにご説明している。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		ご利用者の散歩や買い物の際に、ご近所の方々との積極的な会話やあいさつの中から、花や野菜などを届けていただく関係が出来ている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		夏祭りやおよど、敬老会やサロン、体育の日のイベントや清掃活動等、地域の時々々の行事積極的に参加している。

グループホーム ちくし永岡の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「相談」という形では直接利用者ではない方々の悩みなどをお聞きする事例はあるが、職員間での話し合い、実践はできていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回がはじめての評価になるので、意義等については会議で提起した。		評価結果が公表され次第、職員で議論して今後の介護、施設運営に生かしたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その都度、ご利用者の状況について報告している。その際、地元の問題事例などの報告もあり、今後の対応などについて協議している。施設ご利用者や施設についての質問もあり、10月の運営推進会議で施設見学を行う予定。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難事例、サービス提供にかかわる相談等適宜連携を図りながら、指導助言を頂き、サービス向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学習会を設定した。実際には御家族と管理者との相談がほとんどなので、職員には経過及び事後報告が多い。現在、権利擁護利用者1名、後見人制度利用1名があられる。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのようなものが虐待なのか具体的な事例での学習を実施。また、日常の中でも虐待や拘束になる「言動」にはその都度注意するとともに、ミーティングで報告協議している。		

グループホーム ちくし永岡の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分な説明を行っているが、入院や介護施設変更等には、料金の問題や入退居の規定などを事前に改めて説明している。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	日常の何気ない一言や訴えを聞き流すことなく改善に結びつくよう申し送りや会議の中に出しているが、改めて機会を設けていない。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族が定期的においでになるご利用者については、面会の際に状況の報告をしている。ご家族が遠方などの理由でお越しになれない方については、お電話などで状況報告を行っている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	施設に対する不満などは直接面会や担当者会等でお聞きすることが多い。外部の苦情相談窓口について、施設内にポスターや重要事項説明書等を掲示することで周知している。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	日常的な訴えや、定例会議の中で意見を聴取して出来る限り反映させている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	現状そのような要望や実態はないので対応は行っていない。		今後、ご利用者の状況の変化に伴い、柔軟な対応を行う。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	これまで、退職・異動などで職員の変更が行われてきた。異動は定期的に行っているが、必要最小限にとどめることで、ご利用者の混乱を招かないよう配慮している。		

グループホーム ちくし永岡の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>採用については本人の意欲を最優先として選考を行うと共に、採用後も本人の職場内外での意欲、講習受講など申し出により勤務調整するなどの配慮を行っている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>それのみをテーマにした学習は行っていない。虐待拘束に関わる学習や議論の際に、人権尊重の視点を持つことを強調するにとどまっている。</p>		<p>学習項目に加え深めて生きたい</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>育成のための計画は作っていない。研修に関しては出来る限り参加できる体制を整えている。職場内でのトレーニングでは、日々のフロア主任や管理者の指導と、ミーティングでの議論の中で行っている。</p>		<p>介護の質の向上と均一化を図るためにも、育成マニュアル等の作成を行いたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>特段の会合は持っていない。ご利用お問い合わせの際の情報提供や空室情報などの問い合わせに留まり、サービスの議論することはできていない。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>勤務調整などの優遇や、休憩時間の確保、喫煙の許可、懇親会等の実施によりストレスの軽減に向けた配慮はしているが、さらにそうした取り組みを進めたい。</p>		

グループホーム ちくし永岡の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者、運営者が現場に目を向け、職員の勤務態度などの把握に努め、頭ごなしにしかるのではなく、良いところは褒め、課題は共に解決する姿勢を持って職員の育成に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用までの期間の時間的差異によって十分な事前の聞き取りなどの準備が出来る場合とそうでない場合があるが、時間が無い場合でも情報の収集や、入居後のコミュニケーションによって、出来る限りご本人のニーズの把握に努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用までの期間の時間的差異によって十分な事前の聞き取りなどの準備が出来る場合とそうでない場合があるが、時間が無い場合でも情報の収集や、入居後のコミュニケーションによって、出来る限りご家族のニーズの把握に努めている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特に御家族の状況等を見極め、他の選択肢の提供などに取り組んでいる。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご自宅への執着が強いケースなど、体験的にご利用いただく機会を設けるなどして、スムーズな利用開始に向けた取り組みを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護者としての責任と自負は持ちつつ、ご利用者は私たちの先輩であることを踏まえ、尊敬の念と共感の姿勢を持ち介護に当たっている。		

グループホーム ちくし永岡の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の状況をただ伝えることで、不安や心配を与えることもあるので、状況とあわせて、施設の具体的な手だてをお伝えするとともに、ご家族にやっていただけることもあわせてお伝えしています。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の状況や、これまでのご本人との関係性をしっかりと聞き取りながら、よりよい関係が築いていけるよう、季節行事や買い物など短い時間でも外出していただくよう提案とあわせて、必要であれば送迎などのお手伝いをしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人等の面会に頼るところが多く、施設としての取り組みは行なっていない。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の支度や、折り紙などの手作業をご一緒にしていただくなど共同作業を数多く取り入れている。思い違いなどで言い争いになったりするケースもあるので、事前に把握しながら、そうなる前に職員が雰囲気を変えるよう努めたり、話題を変えたりしている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在2名が退所されたが、面会などを行うとともに、ご家族には相談などをお受けしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時の聞き取りとあわせて、日常の会話の中からご本人の意向を汲み取るようにしている。積極的に家事をしたい方、そうでない方。賑やかな雰囲気が好きな方、そうでない方。などその方のスタイルを尊重するとともに、自宅が気になる方と一緒に見に行ったりの取り組みを行なっている。		

グループホーム ちくし永岡の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にご家族、ご本人、関係事業者等からの情報提供につとめている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ミーティングなどの会議の中で情報を共有しながら、危険回避と機能維持の視点で随時方向を確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議を基本に、日々の、職員の気づきやご家族との懇談の中の情報を元に計画している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご利用者の状態の変化、ご家族のニーズの変化に伴って、適宜修正を加えている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が状態、新たな気づき、それに対する工夫などを記載している。その情報は介護計画作成の情報としている。気づきや工夫の視点が弱いと感じている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅への送迎、イベントへの参加等できるだけ対応を行なっている。		

グループホーム ちくし永岡の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在そうした機関との協議の事例はない。社会福祉協議会との連携を行なっている方がいる。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	そうした事例は現在ないが、必要に応じて取り組む。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用開始時、ならびに困難事例としてあったものについて情報交換している事例がある。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、ならびに往診双方の医療機関と連携している。ご家族と協議しながら、定期、不定期の診療を行なっている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の医療機関と連携しながら、必要に応じて受診しながら医師からのアドバイスを元に介護に生かしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医師等と施設在籍看護師との連携を密に取っている。他の看護職員との連携は現在のところない。		

グループホーム ちくし永岡の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院に伴うADLの低下や認知症の進行等、医師と協議しながら退院の時期など適宜協議している。		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	現在そうした協議は行なえていないが、看取り介護も含めて協議していきたい。現在、後見人制度を利用されているご家族と今後のことについての協議を行なっている。		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	方向性は持っているが、具体的な協議、体制の準備等行なっていない。		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	利用開始時のご本人のご自宅へのお気持ちや施設利用に対するお気持ちなどを十分に把握しながら、諦めではなく積極的なお気持ちで居られるよう、ご自宅を見に行ったり、外泊や面会などでご家族の存在を意識していただきながら、環境の変化に伴う混乱をできる限り少なくしようとしている。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	できる限りプライバシーの保護に努めているが、思わず排泄のことや職員間でご利用者個人のことを話してしまう事例があるので、その都度職員間で注意是正していくよう取り組んでいる。		

グループホーム ちくし永岡の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりとの会話の時間を作ったり、職員の会話のスピードや言葉遣いなどに注意しつつ、お一人お一人に合わせた会話に努めている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ、本人の意思決定を大切にしているが、ややもすると職員側の都合だけが優先される事例もあるので、職員間の指摘や提案などで、利用者本位の確立を目指している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	昼夜や外出時の着替えはもちろん、お化粧品などの要望にもできるだけお答えしている。理容は定期的に来所されるので、ご家族の外出がなければ、施設内での整髪を行なっている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや、食器拭きなどのお手伝いをお願いしている。個々人の意欲にも左右されるが好きな方には積極的に家事を取り入れている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在お酒煙草の嗜好者はおられないが、以前の方は職員見守りの元、喫煙していただいた。時折の買い物などでおやつなどお好みのものを購入され楽しまれている。		
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	基本的にはオムツ、リハパンなどをつかわないでよい方向で取り組んでいる。また、失敗による自信喪失などにも配慮して必要な方には定期的な誘導など行ないながら、失敗のないような取り組みを行なっている。		

グループホーム ちくし永岡の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則1日おきの入浴で予定している。熱発や病気の都合で入浴できなかったり、ご本人のご希望に応じて、予定外の入浴も行なっている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝やお昼寝等はご本人のリズムや希望に応じて、休んでいただいている。朝のみ7時の朝食のため起床の声かけを行っているが、「まだ寝ていたい」「食べたくない」等のご希望ある時は、時間を置いて声かけして起床や朝食をとっていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	施設内での個々人の嗜好に合わせて、歌や手芸、ゲーム、計算等を取り入れるとともに、買い物、散歩等に出かけている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金の管理は「お預かり金」として一括して施設が管理して、お買い物など支出の際に適当な額をお渡ししている。自分で持っていたいという希望をお持ちの方には、ご家族の了解の下、財布の中に小額を入れ持っていただいている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者のご希望または機能維持の取り組みとして、散歩や、近所のスーパー等への買い物等に外出している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとの花見などで外出の機会を設けている。そうした際にはご家族にもご案内して都合により参加していただいている。		

グループホーム ちくし永岡の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望により実施している		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族などにできるだけ訪問していただけるようお願いしている。また、来所の際は、個別にお部屋でお話ができるようにご希望に応じて取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての学習会を実施するとともに、介護者の言葉なども拘束につながることを伝えている。ただ、十分に理解できていない事例も見受けられるため、その都度指導を行なっている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	拘束の学習等を通じて周知している。深夜の時間帯を除いて施錠していない。		拘束についての学習を継続して、拘束のない介護の実践に努めたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者の所在確認には注意を払っている。日中のおやつや体操、お茶や食事の時間や夜間帯の1時間おきの巡視の際を確認事項にしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	最善の注意を払っているが、家庭であることを前提にすべてを危険と結びつけて排除することはしていない。危険と思われるものもあるが、職員の見守り等で対応している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対策委員会が中心となって、ヒヤリハット、事故報告等を活用して事故防止に努めている。		

グループホーム ちくし永岡の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルの設置はしているが、初期対応の訓練を定期的には行っていない。その都度に応じて周知するとともに、看護師の指示を仰ぐよう指導している。		初期対応の訓練とあわせて、講習等への参加を行いたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルの周知はしている。地域の方々にはお願いはしているが、具体的な方法について整備していない。		緊急時の対応について地域の方々の協力をどのように仰ぐかをマニュアル化したい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご利用者の状態に応じて、考えられるリスクについてご家族に説明や報告している。それを踏まえどう生活していただくかについて、ご家族との協議のなかに施設からの提案をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	基本的なバイタルチェックはもとより、食欲や顔色等体調不良の早期発見に努めている。異変の際は看護師に報告するとともに、指示された内容等を職員に周知及び申し送りしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診・処方の際の医師の説明等を申し送りにて周知している。服薬に関する状態の変化等に気をつけ、異変がある際は看護師に指示を仰いでいる。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄のチェックとともに便秘がちになりやすい利用者には、水分や食事の配慮、運動などを実施している。		

グループホーム ちくし永岡の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの実施に努めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の嗜好などにできるだけお応えできるように、要望の把握とともに、個々の状況に応じて水分管理票作成して確認している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成して周知している。また、時々的气候や報道により、改めて周知徹底している。施設内に注意喚起の情報を掲示するなどして、訪問者にも注意喚起している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	前日に搬入されるシステムなので、冷蔵保存等徹底している。調理にも肉用、魚用のまな板の使い分け、火を通さない食品用の消毒薬を常備している。調理者は手指の消毒の徹底はもとより、排泄介助をしないなどの取り組みを行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施錠しないことはもとより、施設内に進入にはバリアフリー構造で段差なく入れる。花壇や裏には畑をつくり、利用者や職員が手入れのために外に居ることで、近所の方とのコミュニケーションも盛んになった。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花などを飾ることで、季節感などを感じていただいている。		

グループホーム ちくし永岡の里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に一人になるスペースは確保されていない。テーブル席、ソファを配置することで、気の合う人が集まる区分けができています。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限りご自宅で使っていたものを持ち込んでいただくようお願いしている。ご家族が施設に来訪された際には写真をとるなどして、居室に掲示させていただいている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に努めるとともに、寝具の洗濯布団干しなど行っている。ポータブルトイレ使用の方は消臭剤を使ったり、こまめに清掃して居尾室内のにおいに注意を払っている。室温は常に気を配り、冬の就寝起床時の暖房、夏季の冷房など管理に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであることを基本に、手すりなどの設置して、できるだけご自分の力で安全に移動していただけるようにしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご利用者との会話のスピードなどに注意しながら、職員の都合にならないよう要望の集約に努めている。また、排泄など失敗して自信をなくされるケースが多いので、適時の誘導などで失敗する機会をなくすよう努めている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りには花壇や畑を作り利用者に関わっていただいている。また、日食の際にはベランダに出て楽しまれたり、気候の良い時はお茶を飲んでいただいたりしている		

グループホーム ちくし永岡の里

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム ちくし永岡の里

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

低所得者や身寄りの無い方など、または困難事例として紹介のあった方など積極的に受け入れている。認知症の周辺症状等に対して薬の使用は最小限に抑えつつ「介護力」による、心の安定や安心によって、落ち着けるような介護を目指している。